

◇令和5年／2023年1月号 第104号◇



フジサンケイグループ

会 産経国際書会 報

SANKEI INTERNATIONAL SHO ASSOCIATION



風岡五城理事長 揮毫

「卯」は十二支の第四番目。「漢書」によると、「卯」は「おおう」を意味する「冒」と同系の語で、草木が伸び出て地面を覆うようになった状態を表すとされ、「卯」を「うさぎ」としたのは十二支を浸透させるために動物の名前を当てたもので、選ばれた理由は定かでないそうです。「卯月」は四月、おそらく第40回記念展の作品制作の真っ只中では…。

皆さんの素晴らしい作品に会えるのを楽しみにしています。



産経新聞社
事業本部長
伊藤 富博

40周年の幕開けに

新年あけましておめでとうございます。
令和5年は卯年（うさぎ年）、そして産経国際書会40周年の年です。うさぎが跳ねるイメージからうさぎ年は飛躍、向上の年と呼ばれ、新しいことに取り組むには最適な年と言われています。

そういう意味では、書会40周年にふさわしい幕開けとなりました。

11月の総括会議でも、貴重なご意見を賜り、40周年記念の各事業が決まりました。

一つ目は、産経国際書会を創設した先人たちから書会の源流を振り返る内容で、小川瓦木、國井誠海、佐々木泰南、十鳥靈石、林錦洞、山田松鶴など錚々たる先生方の作品を展示します。

二つ目は、二代目理事長、田中鳳柳先生の明清の書のコレクションの中から選りすぐりの名品を展示します。

そして三つ目は、近年交流を重ねている日韓書道家による国際交流展。まさに国際の名にふさわしい内容です。上記の三つは8月の東京都美術館の本展内で開催します。

四つ目は、40回展限定となりますが初めて四国展を11月に愛媛県美術館で開催します。

三年前から続く新型コロナウイルスに負けず、コロナ前の活気にあふれた書会の勢いを取り戻すべく、盛り沢山の記念事業を進めて参ります。会員の高齢化や出品点数の減少などたくさん課題があるのも事実です。本年もそういった課題の一つ一つ真摯に向き合い、書会と新聞社が共に繁栄できるように取り組んで参ります。

引き続き、関係の皆様からご支援を賜りますとともに会員皆様のご健勝、ご活躍を心よりお祈りいたします。



産経国際書会
理事長
風岡 五城

癸卯の歳に更なる発展を

新年明けましておめでとうございます。

今年は干支（えと）で言えば癸卯（きぼう）の歳。書会は設立40周年の節目の年を迎えます。これを機に更なる発展を期して次のような40周年記念企画をたて、執行部を中心に準備を進めています。

1. 本展における特別賞の新設
2. (仮)産経国際書展の源流展
3. 田中鳳柳コレクション展
4. 現代韓国書藝作品の特陳
5. 産経国際書会40年の歩みを冊子に

それぞれの企画の詳細については誌面の都合でここでは触れられませんが、今できる最善の企画で40回記念展を盛り上げたいと思っています。

さらに年をまたいで令和6年4月には、上野の森美術館の全館を使用して「未来に向かう産経国際書展一大作を中心に一」を開催し、記念展の締め括りとしします。出品者は一部の役員に限定せず、自薦他薦を含めて大きく輪を広げ源流—現在—そして未来へと繋がることで一連の流れが完結します。

コロナウイルス感染拡大によって世界中が大きな打撃を蒙りました。あらゆることが活動を中止せざるを得ない状態になりましたが、その中で産経国際書展は一度も中止することなく開催出来ました。これはやるかやらないかに迷うよりどうしたら出来るかを考え抜き、さらに会員の皆様のご理解ご協力があったお陰です。今年もよろしく願いいたします。

強い書会に

最高顧問 齋藤香坡



初春のお慶びを申し上げ、本年も宜しくお願ひ致します。

ここ近年、猛威を振るっていたコロナウイルス、そして膨大な国土がありながら、なおウクライナを侵略するロシアの企みも変わることなく、令和5年に引き継がれました。

そのために世界経済は打撃を受け困ったことです。また、それに同調している突貫小僧は、国民など顧みず凶器を飛ばして楽しんでいます。強くなければ勝てない大変な時代になりました。またはそれなりに相手も真剣なのかもしれません。

さて、書道界を見ても、表裏の世界が一流展

につれ厳しいようです。新聞社主催に依る書展は産経、読売、毎日、朝日、東京と5社になります。

産経国際書会は40周年を迎えるに際しては事業も忙しくなりますが、書会独特のカラーを強め国際書展としての自覚を強めるのも良さそうな気がします。よって、書会の安売りは特に控えたいものです。ついては会員幹部層の充実を図る一方、他会での活動に対しても書会の立場を忘れずに行動の程、切に願いつつ皆様方のご健勝を祈念申し上げましてご挨拶と致します。

新年に寄せて

最高顧問 山下海堂



世相の動きが著しく、己己の個性まで打ち流されそうな心理状態を感じる日々であります。何はともあれ、産経国際書会が40周年を迎える本年は、今迄積み重ねて来た書歴を踏まえ、間口の広い書会を一層盛り上げられるような作品発表が望まれることを期しています。

文字の持つ意味にふれ、書の象から深い意義に、そして現代の世相反映に辿り着く作品に挑戦する。精神性の昂揚と感性の成熟する道のりが、常に作品への歩みとなるでしょう。

その思いは骨格を確実に執らえ、線の躍動と深遠なる生命力を追っていくよう書会諸氏

の奮起を願ってやまない所存です。

現状はコロナ禍によって厳しい動きが制限されている日々ですが、チャンス到来と書業に励むことが出来るように思われます。

40回展記念事業として、地方展へ一層の活力と活性化の展開は新聞社の方向づけをも願ひ、その認識を深くし、新聞社と書会の両輪が今迄以上に強く結ばれることを願うと共に、40回展が発展ある書展になりますよう、祈っております。

本年も宜しくお願ひします。

関西展

関西展実行委員長
松井 玲月

会期●8月24日(水)～28日(日) 会場●京都市京セラ美術館

第39回関西展は、大阪市立美術館改修にあたり、会場を京都市京セラ美術館に移して、それにともない、会期も地方展では一番早い8月24日から28日までの開催となりました。

残暑きびしい中、そしてコロナの影響の続く中でしたが、1500人余りの入場者があり、また何事もなく無事終了して安堵しました。

今年度はまだ祝賀会は行なわれず、贈賞式のみを、京セラ美術館近くの京都市勧業館みやこめッセで執り行いました。3年ぶりの贈賞式には、鈴木裕一産経新聞大阪本社代表、伊藤富博産経新聞社事業本部長、風岡五城理事

長に御来場いただいたの本格的な贈賞式となりました。受賞者と限られた関係者70名程の参加でしたが、受賞者代表のお二人に喜びの言葉をのべてもらい、皆様の笑顔に来年度はしっかりと祝賀会もやりたいと実行委員の先生方とも喜び合いました。

今回は久しぶりの京都で、美術館も改装され、以前とは何かと勝手が違い、実行委員はじめ関係各位にも、色々ご苦勞をおかけしました。第40回記念展に向って、より一層の絆をもって望みたいと思います。ご協力に感謝致します。



京セラ美術館での会場風景



みやこメッセで開催された贈賞式



幹部作品



ジュニア書道コンクールの作品



受賞者などの作品



宮城県美術館での会場風景

東北展

東北展実行委員長
松崎龍翠

会期●9月13日(火)～18日(日) 会場●宮城県美術館 県民ギャラリー

東北展は9月13日から18日まで、宮城県美術館県民ギャラリーで開催されました。東北6県からの出品者の作品と、全国巡回される上位特別賞受賞作品、書会幹部作品などと合わせて206点が展示されました。

地元の受賞は、会長賞を始め理事長賞、伊達政宗賞など多数の受賞作に、産経関係者はもとより他会派の方々にも参観いただき、盛会裡に終えることができました。また、今展は「2022産経ジュニア書道コンクール」の上位入賞作品40点も展示され、関係の方々の来場もあり一層の賑わいとなりました。今展は会場の変更もあり来場者に不安もありましたが、実行委員一同安堵した次第です。

贈賞式では、伊達家18代ご当主伊達泰宗様を始め、書会より伊藤産経新聞社事業本部長、風岡理事長のご挨拶を戴きました。第40回記念展への出品への期待も述べられたのが印象的でした。賞状授与では、山下海堂最高顧問、田村政晴常任顧問、高橋照弘理事長代行にもお願いしました。

伊達様のご挨拶では、伊達政宗賞の木村翠川氏の「鳳舞」について感想を述べられました。また、御母堂様の雅号が鳳舞で、書作品も持参してお見せ頂き、その素晴らしさに喝采を浴びる一幕もあり、楽しくも充実した贈賞式となりました。

最後に後援頂きました東北六県・仙台放送に深謝し、御礼のご挨拶といたします。

第39回 産経国際書展東北展 贈賞式



伊達政宗賞の授与



ジュニア書道コンクールの作品

瀬戸内展

瀬戸内展実行委員長
大庭 清峰

会期●9月27日(火)～10月2日(日) 会場●広島県立美術館 県民ギャラリー

令和4年9月27日(火)から10月2日(日)まで、広島県立美術館において、第39回産経国際書展瀬戸内展が開催されました。広島県立美術館は広々としたワンフロアに漢字・仮名・現代書がバランスよく配置され、ゆったりと観覧できる展示になっているようでした。

長引く新型コロナの影響で、予定していました祝賀会は今年も行うことはできませんでしたが、表彰式のみを広島ガーデンパレスに於いて行いました。昨年は、美術館での簡易的な表彰式でしたが、いつもの会場で行われる表彰式は、厳粛な雰囲気も増し、次回作への意欲に繋がったのではないかと思います。

今年も美術館にて入賞された方のギャラリートークを行いました。また、それに引き続き、今回より産経ジュニア書道コンクールの上位入賞者の表彰式を行いました。中四国地方から、東京の表彰式に参加するのはなかなか難しいとの声もあり、広島での表彰式となったわけですが、学生たちの書に対する意識も向上すると思えますし、今後の書道コンクールの発展の為、次回からも地方展での表彰式を続けていきたいと思っております。

最後に、書会の先生方、新聞社の方々、開催に際し尽力していただいた皆様に今一度お礼を申し上げます。



広島県立美術館での会場風景



広島ガーデンパレスで行われた贈賞式



瀬戸内展受賞者の作品



ジュニア書道コンクールの作品

中部展

中部展実行委員長
村田白葉

会期●11月15日(火)～20日(日) 会場●愛知県美術館ギャラリー

地方展の最後を飾る中部展は、11月15日から20日まで、愛知県美術館において開催されました。

ジブリパークの開園等もあり、名古屋は多くの人出で大変な賑わいを見せておりました。コロナ禍ではありますが、最終日の20日には、昨年に引き続き、贈賞式・祝賀会を開催いたしました。

産経新聞社大阪代表の鈴木裕一様、伊藤富博事業本部長をはじめ、多数のご来賓の皆様にご出席を頂き、受賞者の皆様に舞台上で授与いたしました。そして祝賀会には、大村秀章愛知県知事も駆け付けて下さり、温かなご祝辞を賜りました。また、記念写真の撮影にも気軽に応じて下さり、和やかな時間となり、会場は笑顔があふれておりました。

今展開催に当り、実行委員の先生方をはじめ搬入展示、会場受付、搬出、贈賞式・祝賀会の準備・運営等、多くの先生方のご協力を頂き無事終了できました事、心より厚く御礼申し上げます。



大村県知事を招いての贈賞式・祝賀会



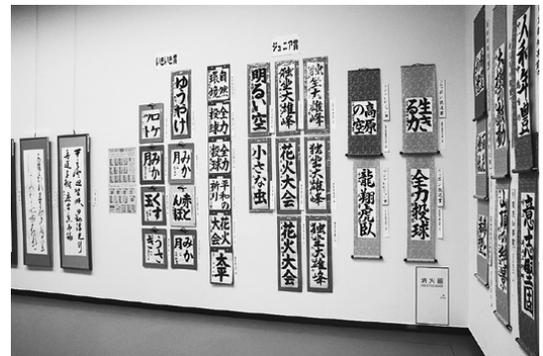
愛知県美術館での展示風景



中部展審査会員の作品



中部展関係者の色紙



ジュニア書道コンクールの作品

第40回記念 産経国際書展 募集要項

1. 賞が増えました！
2. 複数出品の2点目以降の料金は3,000円です。
3. 2023ジュニア展高校生A部門出品者は、U23部門の出品料を1点無料とします。

【出品資格】 18歳以上の方ならどなたでも、但しU23は高校生以上23歳まで(2023年4月1日現在)

【作品部門】 (各部門とも未発表作品に限ります)

- 漢字部門: A 20字以内 B 21～200字以内 C 201字以上
- かな部門
- 現代書部門: A 少字数書(4字以内) B 近代詩文書(漢字かな交じり文) C 墨象 D 刻書
- 臨書部門: A 漢字 B かな ※出典は自由
- 篆刻・刻字部門: A 篆刻 B 刻字 ※この部門は第1分野です
- U23部門: 年齢制限あり(高校生～23歳のみ)、すべてのジャンルの書作品を同じ土俵で審査します。

【作品寸法】 (仕上がり寸法を基準とする)

第1分野

	紙の最大寸法	額(外枠)の寸法=基準寸法
A	240cm×60cm	8尺×2尺(242cm×61cm)縦のみ
B	180cm×60cm	6尺×2尺(182cm×61cm)縦横自由
C	135cm×105cm	4.5尺×3.5尺(136cm×106cm)縦横自由
D	135cm×70cm	5.8尺×2.8尺(176cm×85cm)縦横自由
E	180cm×90cm	6尺×3尺(182cm×91cm)縦横自由
F	120cm×120cm	4尺×4尺(121cm×121cm)

※紙寸法聯落以上の作品であること(但し一つの詩・詞で半切2枚の貼り込みは可)。

※篆刻・刻字・刻書は規定以内であれば自由。

※「かな」の小作品でも、上記規定寸法A、B、C、D、E、Fに貼り込めば第1分野と認めます。

第2分野

	紙の最大寸法	額(外枠)の寸法
G	135cm×35cm	小画箋2分の1・縦横自由
H	70cm×68cm	小画箋2分の1・方形のみ

※半切は種類により寸法に多少違いがありますが、1～2cmの誤差は認めます。

※「かな」の小作品は、上記規定寸法F、G以外でも第2分野として認めますが、極端に小さい作品は不可。

【出品料】 一般部門 第1分野(税込み)=1点13,000円、第2分野(税込み)=1点10,000円

※日本国籍以外の方1点=8,000円

U23(高校生以上23歳まで)部門=1点5,000円、但し「2023産経ジュニア書道コンクール」高校生A部門出品者はU23部門の出品料(1点)を無料とする。

※分野にかかわらず複数出品の場合(2点目以降)1点3,000円

【賞(予定)】 役員対象

高円宮賞、内閣総理大臣賞、中国大使館文化部賞、韓国文化院長賞

役員(専管理事以下)対象

専管理事優秀賞、理事優秀賞、ペルー共和国大使館賞、モンゴル国大使館賞

審査会員(評議員以下)対象

産経国際書会会長賞、産経国際書会理事長賞、国際大賞、40回記念賞、審査会員優秀賞、伊達政宗賞(東北)

無鑑査会員対象

文部科学大臣賞、外務大臣賞、産経大賞、40回記念賞、産経準大賞、無鑑査会員特別奨励賞、太田道灌やまぶき賞(関東)、太宰府天満宮賞(瀬戸内)、無鑑査会員奨励賞

会友会員対象

40回記念賞、会友特別賞、会友賞、会友奨励賞

一般公募対象

東京都知事賞、愛知県知事賞(中部)、産経新聞社賞、フジテレビジョン賞、ニッポン放送賞、国際賞、特選、秀作、入選

U23部門対象

U23大賞、奨励賞、特選、秀作、入選

【応募締切】 2023年5月6日(土) 午後3時までに指定表具店(別記)に搬入をお願いします。

【発表】 2023年8月上旬 産経新聞紙上にて。

【贈賞式】 2023年8月18日(金)明治記念館(東京都港区元赤坂)

【展覧会】 会場：東京都美術館 東京都台東区上野公園8-36

会期：2023年8月14日(月)～8月20日(日)

開館時間：午前9時半～午後5時半 入場は午後5時まで

※14日は午後1時から、20日は午後1時まで

入場料：500円(心身に障害のある人と付き添いの方1人、65歳以上、および学生は無料)

展示作品：秀作以上の入賞作品、地方展(関西、東北、瀬戸内、中部)展示エリア以外の入選作品

問い合わせ 詳細な募集要項と出品票は産経国際書会までご請求下さい。

第40回記念 産経国際書展 審査員(予定)

特別選考委員／石川天瓦、今口鷺外、岩下鳳堂、岩田正直、風岡五城、金丸鬼山、齋藤香坡、竹澤玉鈴、田村政晴、手島たいりく、原田圭泉、村越龍川、山下海堂、渡邊麗

漢字／青木錦舟、新井瑞鳳、大庭清峰、勝田晃拓、須田瑞兆、坂本香心、眞田朱燕、鈴木暁昇、鶴田秀紅、永田龍石、平岡雄峰、古谷華楓、前田恵泉、前田聖峰、村越弘鷹、山本晴城

かな／伊藤春魁、河原畑静揚、齊藤春欣、谷蒼涯、長尾佳風、中村雪鷺

現代書／及川扇翠、加柴律子、河口美櫻、倉賀野静子、作村光風、鈴木蓉春、高頭子翠、富田静流、久田方琥、松井玲月、三宅秀紅、渡邊麻衣子

篆刻・刻字／岩浅写心、風岡五城、高橋照弘

臨書／今井翠泉、武富明子、林清方、町山一祥、松崎龍翠

U23／梅田ちか子、江戸秀虹、鎌田悠紀子、高野彩雲、建部恭子

特別選考予備審査／今口鷺外、風岡五城、金丸鬼山、高頭子翠、原田圭泉、渡邊麗

☆なお、特別選考委員には他に外部審査員が2、3人加わる予定です。

第40回記念 産経国際書展実行委員会

※任期は令和5年4月1日～令和6年3月31日

- 【実行委員長】 高橋照弘
- 【審査部】 本部長 村田白葉
- 漢字部 部長 吉野富龍 副部長 本橋春景
委員 石川晴空、菅井裳雲、十亀紫風、横溝景陽
- かな、篆刻・刻字、臨書部 部長 諸留大穹
委員 進藤栄峰、松岡篁月、宮川姦子
- 現代書部 部長 西川万里
委員 恩田瑞貞、小杉秀花、早坂喜伊
- 【搬出入部】 部長 磯邊哲舟 副部長 伊東玲翠
委員 梶谷綾泉、門山玲花、神谷映水、塚原桃虹、村山蛍泉、矢野春潮
- 【陳列部】 部長 山本晴城 副部長 永田龍石、渡邊祥華
委員 阿久津由美、安蒜欣青、泉芳秋、伊藤春魁、老川揺舟、大場映翠、岡村公裕、加藤松亭、五戸光岳、柴山枝峯、鈴木曉昇、鈴木春春、関根史山、中野和博、林龍成
- 【図録部】 副部長 岩村恵雲、青木錦舟
委員 大久恵華、恩田瑞貞、久米麗鳳、諏訪春蘭、高橋峰月、武翠泉、中村蘭香、村山螢泉
- 【東京部会】 部長 武富明子 副部長 黒田浩芳
委員 岩間桃香、久米麗鳳、関根春峰、平本一恵、山下翠風
- 【東北展】 顧問 田村政晴 実行委員長 松崎龍翠 事務局長 建部恭子
実行委員 大橋玉樹、小嶋カズ子、五戸光岳、鈴木葉光、芳賀祥祿、宮崎礼子、渡部美恵子、渡辺龍泉
- 【中部展】 顧問 村越龍川、風岡五城 実行委員長 村田白葉 副実行委員長 勝田晃拓、山本晴城、渡邊祥華
実行委員 赤堀翠柳、磯邊哲舟、伊藤春魁、老川揺舟、大場映翠、岡本杏華、刑部翠風、菊山武士、木村大澤、小泉玲洸、佐武照聲、田中龍淵、村越弘鷹、和田玲砂
- 【関西展】 顧問 平方峰壽、今口鷺外 実行委員長 松井玲月 副実行委員長 正川子葉
実行委員 小野亭良、長尾佳風、中村雪鷺、久田方琥、西尾蘭畦、篠原秀朋、生田佳葉、竹内美翠、上田智子、加藤竹黎、柳鳳翔、山田娃泉、山田秀園、山口了世
- 【瀬戸内展】 顧問 宮崎春華 実行委員長 大庭清峰 副実行委員長 上村陽香
実行委員 大田桂水、吉本麗竹、石井思水、平岡雄峰、大段栄泉、松岡舟波、三宅秀紅、鈴木蒼、藤井峯子、圓田翠泉、田中春畝、曾根小徑、田中吳峰、植木由樹子、美之口琴晴
- 【四国展】 顧問 宮崎春華 実行委員長 平岡雄峰

第39期 産経国際書会運営委員

- 【総務部】 担当理事長代行 坂本香心 部長 浅香秀子 委員 戸叶幽翠、人見恵風、鈴木博子、横田玉華
- 【会報・広報部】 担当副理事長 高頭子翠 部長 小川艸岑 委員 影山瑤琴、早坂喜伊、渡邊麻衣子
- 【企画部】 担当副理事長 金丸鬼山 部長 岩村恵雲 委員 恩田瑞貞、北野香春、大久恵華
- 【研修部】 担当副理事長 勝田晃拓 部長 永田龍石 委員 進藤栄峰、松岡篁月
- 【教育部(ジュニア育成)】 担当副理事長 松崎龍翠 部長 眞田朱燕 副部長 高野彩雲
委員 岡田崇花、小池雅游、今野美晃、笹山紅樹、鈴木葉光、長谷川明扇、星野葉柳、宮平翠玲
- 【渉外部】 担当副理事長 高木撫松 部長 鎌田悠紀子 部員 遠藤香葉
- 【会員増加企画(東京)】 担当理事長代行 坂本香心、渡邊麗
- 【会員増加企画(大阪)】 担当副理事長 正川子葉、松井玲月

2023産経ジュニア書道コンクール

高校生A部門の出品料は3,900円。軸装にして返却します。※返却料はご負担ください。

【開催要項】	審査員	2023年5月に発表します。審査長は松崎龍翠、実行委員長は眞田朱燕。
会期	2023年8月14日(月)～8月20日(日)	発表
	午前9時30分～午後5時30分(入場は午後5時まで)	入賞者氏名は2023年8月上旬の産経新聞紙上(予定)で発表します。
	※初日は午後1時から、最終日は午後1時まで(入場は午後12時30分まで)	募集期間
		2023年4月1日(土)～6月12日(月)
会場	東京都美術館 2階第3・4展示室	搬入場所
会賞	文部科学大臣賞など特別賞。推薦、特選、秀作、佳作となります(中学生以下)。	〒134-0088
贈賞式	2023年8月19日(土)予定 東京都美術館講堂にて	東京都江戸川区西葛西6-9-12西葛西 トーセイビル4F
		(株)スタッフアルファコミュニケーション内 「産経ジュニア書道コンクール」係

【出品要項】

応募点数 一人何点でも可 応募資格 幼年、小学生、中学生、高校生

出品規定

書体		幼年	小学生	中学生	高校生
		楷書	楷書	楷書または行書	自由
作品へのお名前等の書き方		年齢と姓名 姓名どちらかでも可	学年と姓名 小1、2年は姓名どちらかでも可	学年と姓名 学年は中1、中2、中3と入れる	名前(姓不要)の下に書または臨と墨書
大きさ	A部門	八つ切り(縦のみ)			小画仙半切(縦横自由) 小画仙全紙2分の1
	B部門	半紙(縦のみ)			半紙(縦のみ)または半切よこ4分の1(縦横自由)
出品票		漢字でフルネームを記入し必ずふりがなを明記し、作品の左下隅に貼付 臨書は法帖名、創作は題名を備考欄に記入のこと			

※八つ切り=半切4分の1(たて68cm×よこ18cm)、小画仙たて半切=たて135cm×35cm、

小画仙全紙2分の1=たて68cm×70cm、半切よこ4分の1=たて34cm×35cm

※多少の寸法誤差は認めます。

※規定の出品一覧表を添えてください。

	規定の漢字数	参考課題	
幼年	規定なし	もり	うさぎ
小1	規定なし	てがみ	なつくさ
小2	規定なし	おもいで	うち水
小3	漢字1字以上	花たば	ながれ星
小4	漢字2字以上	女王ばち	広い世界
小5	漢字2字以上	素直な心	満月の夜
小6	漢字3字以上	長い航海	国語辞典
中学	漢字4字以上	新進気鋭	無形文化財
高校	制限なし(一字書から多字数)	臨書あるいは創作(書体自由)	
国際	規定なし		

※国際は外国人または国外在住の日本人

※参考課題は、A(八つ切り)部門、B(半紙)部門共通です。

出品料

	中学生以下	高校生	国際 (在日外国人も可)	※金額は1点(消費税込)。高校生A(半切)部門は軸装料含む。 (出品料は下記口座に銀行振込でお願いします。団体出品の場合は一括で入金して下さい。) みずほ銀行 大手町営業部 普通2786314 口座名:ジュニア書道コンクール
A部門	1,000円(八つ切り)	3,900円(半切)	600円	
B部門	600円(半紙)	600円(半紙など)	600円	

作 品 返却いたしません※特別賞各賞とジュニア賞、いきいき賞、高校生の奨励賞以上は返却します。

募集要項、出品票、一覧表は産経国際書会事務局☎03(3275)8902までお問合せください。

一式資料をお送りいたします。

産経国際書会研修会「臨書を学ぼうⅡ」

研修部 勝田晃拓

“What’s next”？…出来る、出来ないより、やるか、やらないか…だ！

稽古は元々「古を考える」という意味で、古人の書を学ぶ事を清の王樹は「臨古」と呼んだ。古とは価値である。この研修会もそれが出発点。秋の気配を仄かに感じさせる9月24日、かの研修会場は墨一色に染まり芳しき香りに包まれた。コロナ禍で3年ぶりの開催だが、この間、会員の情熱は少しも薄れてはいなかった。それもその筈、二日間で述べ200人近くの参加者数とその強さの証しだろう。

盤石の感染対策の中、4人の講師陣による楷、行、草、隸書古典の講義、示範揮毫、実習、実技指導と盛り沢山のメニューは正に分刻みだ。目から鱗の新情報や流麗な示範揮毫での筆の妙は、大型スクリーンでも鮮明に映像化。最初は緊張の面持ちだった

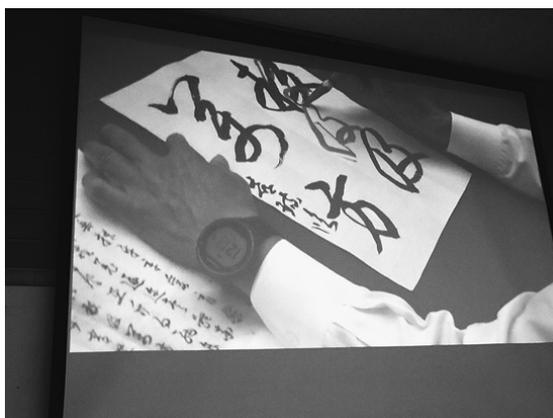
方々も、書気、想像力をアレコレと掻き立てられ、実践に入るや夢中で筆と戯れる姿が特に印象的だった。

大盛況の講師添削コーナーは時折マスク越しに歓声も上がり、嘗ての華麗な稽古世界を彷彿とさせた。久しぶりに、書友と実技での目の輝きは、難しくとも楽しく、進化には臨書が不可欠だとの共通した実感が込められていたのかも知れない。

出来ないと諦めていては何も生まれない。向上は高い壁に立ち向かう勇気と、地道な研鑽が後押しするものであり、参加した皆は来る40回記念展も見据えて、手応えの余韻に浸りながら、芸術の秋が更なる糧に繋がることを期待しつつ会場を後にした。



久しぶりの研修会に多くの方が参加



先生方の添削は前方スクリーンに

【講座内容と講師】

日にち	時間	内容
9月24日(土)	午前 午後	草書 嵯翁 臨「邪子愿千字文」高橋照弘理事長代行 楷書 光明皇后「楽毅論」町山一祥副理事長
9月25日(日)	午前 午後	行書 空海「風信帖」松崎龍翠副理事長 隸書 「漢簡」風岡五城理事長

参加者数 24日(土) = 88人(会員64人、一般24人)

25日(日) = 109人(会員74人、一般35人)



風岡先生の周りにも長い列が



会話しながら指導する高橋先生



スクリーンを使って講義する町山先生



熱心に指導する松崎先生

第 39 回 産経国際書展 新春展

◆会期 令和5年1月25日(水)～2月6日(月)
1月31日(火)休館
午前10時～午後6時(最終日は午後3時まで)

◆会場 国立新美術館 2階B・C・D展示室
◆入場 500円(大学生以下、65歳以上は無料)。
※1月25日(水)オープニングのテープカットを会場
入り口付近にて10時30分より予定しております。
※2月2日(木)午後4時から明治記念館にて贈賞
式・祝賀会(予定)を行います。



大作下見検討会

今回は、代表展191点、新春展Ⅰ189点、大作6点、新春展Ⅱ467点、合計853点を展示します。
大作の下見検討会は9月22日(木)、東京・六本木の国立新美術館地下1階の審査室で、風岡五城、坂本香心、渡邊麗、金丸鬼山、高頭子翠、武富明子の6人の先生方により行われ、青木錦舟常務理事(かな)、及川扇翠専管理事(漢字)、伊藤牙城理事(漢字)、高橋峰月理事(漢字)、宇野淳風審査会員(現代書)、富岡桃翠審査会員(現代書)の出品が決まりました。
新春展Ⅱの審査は12月9日(金)、国立新美術館地下1階の審査室で、高橋照弘、勝田晃拓、高木撫松、武富明子、松井玲月、町山一祥、松崎龍翠、村田白葉の8人の先生方により467点の作品の審査が行われました。

受賞者は以下の通り

〈会友奨励賞〉

岩崎婉水、勝又瑤仙、北河光春、畑迫秀岳、松本昇薇、山口翠婉

〈産経新聞社賞〉

秋山紫翠、市原澄子、川崎鶯遊、後藤正子、小松原友子

〈奨励賞〉

足立智教、阿部雲峯、阿部典翠、安静圓成、市川由布子、市川優花、市村和子、井村明香、宇本美希、江口鶴翠、大野漱雪、岡田和美、岡本恵巳、奥城蒼月、折尾遥光、加藤智奈美、倉田友翠、栗原知津美、佐藤嘯月、佐藤芳幸、塩川峰翠、田頭紫耀、高橋溪翠、辻本安子、鶴淵雅子、永瀬優月、中水蕙葉、野中真依子、橋本敦心、長谷川静歩、早見美翠、深松華夢、森田玲心、吉田満利、和田悦子、和田玲風、渡邊麻衣子

受賞者が
決まりました!



新春展Ⅱ会友作品の審査



新春展Ⅱ一般作品の審査

煌心書道会

松崎龍翠

【煌心書道会の発足】

鶴心書道会創設者、山田松鶴先生(産経国際書会最高顧問)ご逝去の哀しみを乗り越えて、後継書会として「煌心書道会」が誕生した。時に平成25年5月、鶴心書道会の副会長だった松崎龍翠を中心に幹部有志により発足した。平成26年1月創刊の煌心誌で「恩師松鶴先生の恩沢と御教導を胸に、今、煌心書道会に参加した書を愛する人々と共に果てしない青空に向かって、煌めく心をふるわせて力強く羽ばたいて行きましょう。」と感懐を述べた。以後10年役員員の誠意ある献身により今日を迎えることができた。

【月刊競書誌「煌心」】

一般部には課題の半紙・条幅、臨書の半紙・条幅に加え、かな・細字・一字書と多彩な出品が、誌友の研鑽に不可欠となっている。学生部は毛筆・硬筆が出品でき真摯に取り組んでいる。書写・書道の普及発展を目的に、人間性の向上と伝統文化の発展に寄与したいと願っている。

【煌心展は毎年2月】

煌心書道会の発表の場は、毎年2月の全国公募煌心展(学生部併催)である。鶴心展に回を

重ねて、令和4年2月東京都美術館において第40回記念煌心展を開催した。

一般部は218点。学生部は305点。一般部学生部共に第40回記念展に相応しい応募点数となった。記念展作品集を発刊して、出品者の努力に感謝の意を表した。

【同人展は毎年10月】

煌心書道会の幹部である同人の発表の場である、煌心同人書展は毎年10月開催。今年は鶴心に回を重ねて47回、奇しくも47名の出品で、銀座かねまつホールで開催した。古典を根底に各人の日頃の研鑽の発表で、個性溢れる作品群は多くの参観者の皆さんに書の魅力と楽しさを感じてもらえたと思う。

【産経国際書展本展・新春展・ジュニア書道コンクール】

煌心で恒例の発表の場となっているのが、産経国際書展と新春展である。

新春展では奨励賞、本展では会長賞・無鑑査会員特別奨励賞など、ジュニア展では産経新聞社賞・ジュニア賞・奨励賞など多数の賞を頂くことができた。



第40回記念煌心展を終えて



第47回煌心同人書展を終えて



第40回記念展風景(都美術館)



同人書展会場風景(かねまつホール)

書展 トピックス

國井誠海記念館35周年記念展

渡邊麻衣子

●会期 9月23日(金)～9月25日(日) ●会場 國井誠海記念館

誠心社創設者の國井誠海(1917-2009)が書業を記念し故郷の山形市に設立した國井誠海記念館が今回で開館35周年となり記念展を開催。常設の展示に加え未公開作品5点を特別展示。近隣の書家や、近県から誠海ゆかりの方々が多数来館、地元山形市の方々にも広く知られ、産経新聞info、山形新聞、新美術新聞、他、掲載頂き良い記念展となりました。



第35回研友社展

金丸鬼山

●会期 10月6日(木)～10月9日(日) ●会場 銀座かねまつホール

本来記念展として開催する社中展でしたが、一昨年11月に田中鳳柳先生が他界され新体制での取り組みでした。成田山書道美術館に寄贈した田中先生の内閣総理大臣受賞作品を借用、会員所蔵作品と合わせて7点の遺作と会員作品を展示、先生の遺影が見守る中、多くの深交のあった先生方と先生を偲び、お話しさせて頂きました。本当に有難うございました。

明扇書藝會第10回記念書道発表会

長谷川明扇

●会期 10月7日(金)～10月10日(月・祝)
●会場 長野県立美術館 しなのギャラリーA・B&ホール

隔年開催しております社中展も10回目となり、メモリアルな節目となりました。今回は、昨年新築されました長野県立美術館での開催で、作品も華やかな展示となりました。今回のテーマは、会場に隣接されております東山魁夷画伯の絵とのコラボです。画伯の絵から感じた言葉を小学生から80代まで、個々に制作致しました。



50周年記念土筆会書道展

上村陽香

●会期 10月12日(水)～10月16日(日) ●会場 ふくやま美術館 1Fホール

偶然の事とは言え、土筆会は50周年と我が故郷福山市の築城400年が相重なりとても、記念すべき実りある展覧会になりました。約30年前よりご後援いただきながら過去2年間はコロナ禍で開催できず、今回は万全を期し、開催出来ました事に感謝いたします。大変ありがとうございました。

菜根譚ふたたび 高頭子翠書作展

高頭子翠

●会期 11月1日(火)～11月6日(日) ●会場 銀座鳩居堂画廊

コロナ禍の中、栄誉ある高円宮賞受賞を記念し個展を開催、生涯に二度とない素晴らしい年となり、受賞後に書き上げた36点を展示。皆様のご支援のおかげで御来場下さった方々からの何よりの温かいお言葉。心より感謝の気持ちで一杯でした。これを糧として更なる心に響く作品づくりに精進してまいります。

関係各位の皆様には厚く御礼申し上げます。



晋鷗来日30周年記念師生書法篆刻展

晋 鷗

●会期 11月5日(土)～11月10日(木) ●会場 東京中国文化センター

来日以来初心を貫き書道・篆刻の発展の為に研究と研鑽を積んできました。今まで以上に、日中両国の交流推進に貢献すべく、芸術を通して真の両国を結ぶ架け橋となるよう、努力してまいります。今回の展覧会は自身の書及び篆刻作品20点と門下生の作品50点を展示しました。今後も産経展には、なお一層充実した門下生らの上質な作品を出展できますよう、指導にあたってまいります。



書・墨・アートVol.13 渡邊麗展

渡邊麗

●会期 11月8日(火)～12月4日(日) ●会場 座・高円寺

今回で13年目となる杉並芸術会館、座・高円寺企画、「書・墨・アート Vol.13渡邊麗展」。今回は「心の目を開く」題目に「人間と自然の融合を未来へ」「人間の崖」「ことばをつなぐ扉のひとつとなる」「永遠」「躍進」、超大作「樹は根に拠るが根は見えぬ」の新作6点を発表。10m超えの作品は、生家の大樹を師、國井誠海と仰ぎ紡いだ自作の語374文字。じっくり作品を観てから読む方が多く好評でした。



第35回日書美展

中塚龍華

●会期 11月19日(土)～11月20日(日) ●会場 南海浪切ホール(大阪)

樽谷龍風先生が旅立たれ、はや2度目の展覧会となりました。新理事長太田春麗先生のもと、自由でバラエティに富んだ作品が揃いました。今回から会場も新たに、より多くの地域の皆様に参加していただけたと思います。また、学生公募展では三年ぶりに贈賞式も行え、活気溢れる展覧会となりました。ここに一同心より御礼申し上げます。

3年ぶりに理事会開かれる

令和元年度以来、3年ぶりの産経国際書会理事会が11月30日(水)、東京都千代田区の手町サンケイプラザで開かれました。はじめに産経新聞社の飯塚浩彦代表取締役会長から来年度の第40回記念展などについて期待する旨の挨拶があり、その後、風岡五城理事長が議長を務め、議事を進行いたしました。

事務局から展示替えなしで行った本展とジュニア展、京都市京セラ美術館で行われた関西展はじめ地方巡回展、久しぶりに行われた研修会など11月までの事業報告、来年度を含めた今後のスケジュールの説明がありました。そして、第40回記念展での賞の増設や産経国際書会を創設した先達の作品を紹介する「源流展」や、田中鳳柳コレクションによる「明清書画名品展」など記念企画や、再来年実施のベテランから新進気鋭までの産経書人による大作を中心とした特別展示まで、2年にわたって取り組む40周年記念企画の提案。また、新入会(会友)が77人、昇格者が78人示されるとともに、来年度の本展審査員を発表、本展実行委員会と運営委員会については原則昨年度のメンバーが引き続き担当することで了承されました。



(事務局)

今後の展覧会などスケジュール

※新型コロナウイルス感染症の状況により変更する場合があります。

第39回新春展	令和5年1月25日(水)～2月6日(月)国立新美術館 贈賞式・祝賀会(予定) 2月2日(木)明治記念館 午後4時～
総会	令和5年4月20日(木)大手町サンケイプラザ 午後2時～(予定)
第40回記念本展締切	令和5年5月6日(土)
第40回本展審査会	令和5年5月30日(火)～6月2日(金) 東京都立産業貿易センター台東館
2023ジュニア展締切	令和5年6月12日(月)
2023ジュニア展審査会	令和5年6月26日(月)東京都美術館(予定) ※27、28日は、審査後作品整理
第40回記念本展 2023ジュニア展	令和5年8月14日(月)～8月20日(日)東京都美術館 午前9時30分～午後5時30分。14日は午後1時から、20日は午後1時まで。
第40回記念本展贈賞式	令和5年8月18日(金)明治記念館
2023ジュニア展贈賞式	令和5年8月19日(土)東京都美術館講堂(予定)
第40回記念関西展	令和5年8月30日(水)～9月3日(日)京都市京セラ美術館 贈賞式 9月3日(月)リーガロイヤルホテル京都 正午～(予定)
第40回記念東北展	令和5年9月8日(金)～9月13日(水)せんだいメディアテーク 贈賞式 9月10日(日)ホテルメトロポリタン仙台 午後3時～(未定)
第40回記念瀬戸内展	令和5年9月26日(火)～10月1日(日)広島県立美術館 贈賞式 9月30日(土)広島ガーデンパレス 午後2時～(未定)
第40回記念中部展	令和5年11月7日(火)～11月12日(日)愛知県美術館ギャラリー 贈賞式 11月12日(日)名古屋ガーデンパレス 正午～(未定)
第40回記念四国展	令和5年11月28日(火)～12月3日(日)愛媛県美術館 贈賞式(未定)
理事会	令和5年12月7日(木)大手町サンケイプラザ 午後2時～(予定)

アラカルト

今口鷺外常任顧問に大阪府南警察署から感謝状

特殊詐欺の被害防止を訴えるポスターに揮毫し、地域の安全に貢献したとして、令和4年10月17日に大阪府南警察署で今口鷺外常任顧問に感謝状が贈られました。

ポスターは計4種類。署員がふんする高齢女性が犯人と通話しながらATMを操作している写真を背景に、力強い筆遣いで「だまされたらあかん」「その電話待った」などのメッセージが書かれている。



産経新聞社の新社長に近藤哲司氏が就任

令和4年6月24日付けで、産経新聞社の人事交代があり、新社長に近藤哲司(1960年生まれ、長野県松本市出身)専務が昇格いたしました。また、前社長の飯塚浩彦氏は代表権のある会長に就任し、産経国際書会の会長職は引き続き、飯塚会長が務めます。

なお、産経新聞社賞などの賞状に関しましては、「代表取締役社長 近藤哲司」で作成ください。(事務局)

各会書展お知らせ(産経新聞社後援)〈令和5年1月～4月〉

展覧会名	会期	会場	社中名	代表
第39回雅滙会書展	1月6日(金)～1月11日(水)	有楽町朝日ギャラリー	雅滙会	一色白泉
第41回埼玉県中央書道展	1月20日(金)～1月25日(水)	上尾市民ギャラリー	埼玉県中央書道人連盟	細瀨柳青
第86回龍峽書道展	2月5日(日)～2月11日(土・祝)	東京都美術館	龍峽書道会	林 龍成
第41回全国公募・学生部併設煌心展	2月13日(月)～2月19日(日)	東京都美術館	煌心書道会	松崎龍翠
第38回景雲社「絆」書道展	2月13日(月)～2月19日(日)	クリエート浜松ギャラリー35	景雲社	勝田晃拓
第34回書成会書展	2月16日(木)～2月19日(日)	セントラルミュージアム銀座	書成会	建部恭子
泉の会第21回新春展	2月21日(火)～2月26日(日)	四街道市民ギャラリー	泉の会	梶谷綾泉
2023菽水書人社展	3月2日(木)～3月5日(日)	銀座かねまつホール	菽水書人社	林 清方
第51回八戸臨泉会書展 第74回八戸臨泉会学生書道展	3月10日(金)～3月12日(日)	八戸市美術館	臨泉会	原田圭泉
第39回書のコアンメントールぼくりん	3月14日(火)～3月19日(日)	銀座鳩居堂画廊	墨林書道院	遠藤乾翠
誠心社現代書展 國井誠海一門創立77周年	4月10日(月)～4月16日(日)	東京都美術館	誠心社	渡邊 麗
第11回あんぱんの会とその仲間たち書展	4月23日(日)～4月29日(土・祝)	東京交通会館 地下1Fゴールドサロン	あんぱんの会	青木錦舟

追悼

次の先生が黄泉につかれました。
本会での活躍とご指導ご鞭撻を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、
心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。(敬称略)

常任顧問 佐藤志雲 (令和4年10月)

編集後記

何となく、今年はいいことあるごとし。元旦の朝、晴れて風無し。—石川啄木—
新しい年の幕開けです。皆さまにとりまして佳い年でありますようお願いしております。

令和2年の1月から丸3年が経ち、コロナとの共存にも慣れ平常に戻ったかのようにも見受けられます。

昨年9月、3年ぶりに開催された「臨書研修会」には「待ってました！」とばかりに大勢の会員が参加しました。

関西、東北、瀬戸内、中部展も無事に終了することが出来、ご尽力くださいました実行委員の先生方には厚くお礼申し上げます。

芸術の秋の社中展も活発に行われ、以前のように直接お目にかかる機会も増えて嬉しいことでした。

今年は産経国際書展も40周年の記念の年を迎えます。どんな企画が繰り広げられるのか今から楽しみです。今年こそ懇親会が再開され、皆さまとお会い出来ると良いですね。

本年もどうぞ宜しく願い申し上げます。

(小川艸岑)

(会報編集委員／高頭子翠、小川艸岑、影山瑤琴、早坂喜伊、渡邊麻衣子)

編集・発行 令和5年1月号
〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2
産経新聞社事業本部内
産経国際書会事務局
TEL:03(3275)8902 FAX:03(3275)8974
email : shokai@sankei.co.jp
<http://sankei-shokai.jp/>
<https://www.facebook.com/sankeishokai>

お願い

会員の皆様に住所・電話番号等の変更があった場合には事務局までご連絡くださいますよう、また、各会書展のお知らせは早めにお願ひ致します。